

困難に立向かう未知の経験で、人間の器は大きく成る

理事長 西河洋一

新年明けましておめでとうございます。

事業を拡大させて大きく企業を成長させるという事は、多くの経営者の目指す所であり
ます。

私は2000年、9名の社員を持つ会社の社長からスタートして、現在企業グループ社員総
勢7千名を束ねるホールディングス企業の社長として日々の経営に当たっています。何故
16年間という短期間でこれだけ大きな組織のリーダーになれたのか、新年を迎えるにあた
り自分なりに考えて見ました。

それは運といえばそれまでですが、6社が統合する際に全社の中で最も成長が著しい会
社の社長であったことが評価され、私が相応しいという事で社長に任命されたものでは
ないと思います。

私は、小さなゼネコンで働いていた時に、4社が係わる大きな学校校舎建替えのJV建
設プロジェクトに参加させて貰いました。

最盛期で1日に500名を超えるような作業員が働く大規模現場の担当工事責任者という
立場で参加しましたが、初めての経験で、規模の大きさに圧倒され途中で自信がなくな
って、現場の副所長に自分では責任者は無理ではないかと相談しました。その時『今まで
あなたがやってきた現場で、現場が完成しなかった事がありますか?』と問われ、『私が係わ
った現場は、全て完成しました』と答えました。『では、大丈夫工事は絶対に完成し、良い
経験になるから是非頑張ってみなさい』と励まされ、後にその通り立派な建物が完成し
ました。今ではこの工事の経験が自分の大きな自信に繋がっています。

困難に立向かい未知を経験することで、人間の器が大きく成って行くという私の経験で
あります。

もし、あの時の副所長の励ましがなく自分が諦めていたら、現在の自分は無かったと思
います。今でも1年に1回その現場の同志が集まり思い出を語り合う友人関係が続いてい
ます。

企業を成長させるのは、部下の器を大きくなるように育てていくという事の繰り返しで
実現するものと思います。上司が部下をしっかりと育てると言う関係が重要です。

社長として全体を見回し、各所の所属部下達がしっかりと育っているかどうかを日々見守
り、援助していくことが今後の企業成長に大切であると、年頭にあたり再確認しました。

(西河洋一)